

# ベトナムにおける国際交流のためのタブレット PC 活用の試み

## Case Study on Utilization of TabletPCs for International exchange in Vietnam

坂本 旬  
法政大学キャリアデザイン学部

あらまし: キャリアデザイン学部では 2011 年度から海外インターンシップを行う「キャリア体験学習(海外)」を、それまでの北京に加えて、ベトナムのホーチミン市でも行っており、今年度で2回目となる。本授業では一人一台のタブレット PC(iPad)を導入し、学生間の情報共有やホーチミン国家社会人文科学大学との協働学習に活用を試みた。その結果、両大学生たちによって、短時間で映像作品を制作することができた。また、情報共有にも一定の成果を上げることができ、国際交流における iPad の有効性を確認することができた。

キーワード: 国際交流、協働学習、キャリア教育、iPad、タブレット端末

### 1. はじめに

法政大学キャリアデザイン学部では 2011 年度より、従来北京で行ってきた「キャリア体験学習(海外)」をベトナムのホーチミン市でも行うことになった。受講生は希望者の中から 10 名を選び、前半はホーチミンの日経企業や NPO 等の訪問、後半はホーチミン国家社会人文科学大学外国語学部日本語学科の学生 10 名との交流学习を行った。

昨年度は交流学习に ICT を用いることはなく、ディスカッションを中心に行ったが、今年度は iPad を 10 台用意し、デジタル・ストーリーテリングの協働制作を行った。このような試みは両校の学生にとっても初めてであり、貴重な体験であったと言える。

### 2. 授業概要

「キャリア体験学習(ベトナム)」は本学兼任講師である御園生純氏が担当しており、授業全体の設計や海外での活動については御園生氏が理事を務める NPO がコーディネーターとしてとりまとめている。筆者が関わるのは 2 日間の社会人文科学大学との交流のみである。

本授業は現地日系企業への海外インターンシップを目的にしているが、実際にはインターンシップではなく、企業や NPO、日本人の経営するレストランへの訪問、現地で活躍する日本人へのインタビューなどを行っている。

訪問相手への交渉もすべて学生が事前に準備して行い、学生の宿泊先も何カ所かに分割するなど、学生の自主性と独立性を意識した学習を目指している。そのため、一日の反省会は宿泊先ではなく、レストランやカフェで行い、それぞれがその場所に出向く必要がある。このような事情から、学生すべてに現地用の携帯電話を持たせると同時に、iPad を貸与し、情報の共有に活用させることとした。

また、社会人文科学大学との交流の中心として両大学の学生が文化の違いを超えた協働作業を行うことを目標とし、今回は協働でデジタル・ストーリーテリングの制作を行うこととした。

前期、iPad は他の授業で使用していたため、学生たちへの配布と使用方法の解説は前期最終日である

7 月 19 日一回だけである。

この授業では交流の目的として、「ベトナム学生との対話」、「自分たちの今を映像化する」、「映像(デジタル・ストーリーテリング)の協働制作」、「国境を越えた生き方を考える」の 4 点をあげ、現地で行う具体的な交流活動を解説した。

それは以下の 3 つである。まず、法政の学生によるデジタル・ストーリーテリングを使った自己紹介、次に法政の学生の支援によるベトナム人学生の「私の夢」をテーマにしたデジタル・ストーリーテリングの協働制作、そして 3 つめはベトナム文化探究をテーマにしたデジタル・ストーリーテリングの協働制作であった。最後に、作品の上映会と振り返りを行うこととした。この日は受講生に自己紹介のデジタル・ストーリーテリングの制作を宿題とした。

また、受講生間の情報共有や作品掲載の場として e ポートフォリオ(Mahara)を使う予定であったが、残念ながら Mahara が iPad に対応していなかったため、現地での使用を断念し、その代わりにブログや Evernote を使用することにした。

当初、受講生の自己紹介作品は 9 月 1 日の事前授業で評価を行い、ベトナムでの交流授業の準備を行う予定であったが、結果的に行うことができず、そのまま本番を迎えることとなった。

今年度の「キャリア体験学習(ベトナム)」は 9 月 7 日～19 日まで実施され、筆者は 13 日から参加した。社会人文科学大学との交流は相手校担当者との交渉の結果、9 月 14 日の午前中と 17 日の午後に行われた。この時期が社会人文科学大学の新学期が始まったばかりの時期にあたったこともあり、交流時間は、実際にこちらで想定したものよりもずっと短いものとなった。

### 3. 利用した機能と授業運営

9 月 14 日は社会人文科学大学側の都合により、午前中しか教室を使うことができなかつたため、午前中 9 時から 12 時までの 3 時間を使って、お互いの自己紹介およびデジタル・ストーリーテリングの作成方法、双方の学生一人ずつ、二人一組に分かれて企画作りを行った。テーマはベトナム人学生の「私の夢」である。ベトナム人学生は日本語を学んでいる

が、自分の将来について考え、表現するような機会  
はこれが初めてであった。

また、文化探究をテーマにしたデジタル・ストー  
リーテリングは双方の学生がフィールドワークを通  
して、日本の学生に紹介したいベトナム文化を選び、  
映像作品にすることをめざした。

午後はそれぞれのグループごとにデジタル・スト  
リーテリングの制作を行うこととし、次回 17 日で  
「私の夢」と文化探究の作品の発表会を行うことと  
した。当初の位置づけは「私の夢」は練習であり、  
本来の目的はフィールドワークによる文化探究をテ  
ーマとした作品制作であった。

デジタル・ストーリーテリングの制作には iPad 用  
iMovie を用いた。デジタル・ストーリーテリングは  
10 枚程度の静止画とナレーションの組み合わせに  
よって作ることができる。iPad ならばカメラもマイ  
クも内蔵されているため、本体だけで作品を完成さ  
せることができる。ノートパソコンを使う場合と比  
較すると、きわめて簡単である。

実際に使用した映像は、その場で撮影したもの  
の他、ベトナム人学生が持ってきた自分の写真やあら  
かじめ iPad 側に用意されていた画像を用いている。

しかし、当初予定していた文化探究のデジタル・  
ストーリーテリングは 17 日までの完成が見込めな  
かったため、断念し、「私の夢」のみの制作となった。  
その理由は当初練習の位置づけだったにもかかわらず、  
ベトナム人学生たちがナレーション原稿の作成  
にかなりの時間を掛けて、制作にのぞんだためであ  
る。彼らにとって日本語によるナレーションはそれ  
自体が何度も練習を必要とする大きな課題であった。

#### 4. 成果と問題点

現時点ではベトナム人学生の感想が手元に届いて  
いないため、日本人学生のみを感想を紹介しておき  
たい。まず、iPad を用いたデジタル・ストーリーテ  
リングの協働制作については、「ベトナムの同年代の  
学生と何かを共同で作ることができ、達成感  
を感じている」「ベトナムの学生とともに一つの作品  
をつくり上げる事は共有する時間や労力も増えるし  
全体としては非常に良い体験となった」「映像で残す  
とレポートなどよりも人に見てもらいやすいし、ま  
た作り手もその方がやる気が出ます。iPad での作成  
は簡単だし、自分が撮った写真を使用するというこ  
とを念頭に研修を進めれば、より充実したものにな  
ったと思う」といった肯定的な評価がある一方、次  
のような問題点が挙げられていた。

第一に、ベトナム人学生にとって高価な iPad を学  
習に使用することに対する違和感である。これは筆  
者もまったく想像もしていなかった感想であるが、  
多くの日本人学生がこの違和感を持っていたよう  
である。例えば「向こうの学生との格差を考えると iPad  
を使用すること自体に違和感を覚えます」「やはりベ  
トナムでは、iPad は一般に普及しておらず、そのよ  
うな、なかなか手の届かないデバイスを交流に用い

ることへの疑問を、私自身少なからず感じたのは確  
かである」といった感想があった。

この問題は iPad 等の端末を国際交流に使う意味  
を教育工学とは別の視点からも考える必要性を示唆  
しているといえる。

第二に、制作時間が足りないという問題である。  
例えば「フィールドワークを行いながら親交を深め  
つつも作品を完成させるにはあまりにも時間が足り  
なかった」という感想が典型的なものである。

これは教室で直接指導できる作業時間がきわめ  
て少なかったという問題であるように思われる。ま  
た、一部の学生たちは iPad の操作の仕方をベトナム  
人学生に教えなければならぬと考えていた。もち  
ろんそれはこの授業の目的ではない。日本人学生の  
役割を細かく指示しなかったこともこの問題につな  
がっていると思われる。

また、事前に学生たちにデジタル・ストーリーテ  
リング制作の指導をする時間そのものが短すぎたた  
め、日本人学生が制作方法を習得していたとはい  
いがたい状況があった。

第三に、iPad そのものの問題点である。端的に言  
えば、フィールドワークのツールとしては少々大き  
すぎるのである。ある学生は「海外での iPad の使用  
はとても便利でした。ただ持ち運びには少し重たい  
気がしました。しかし、PC を持ち運ぶよりはかなり  
快適でした」と書いている。

iPhone でも iMovie を使用することはできるが、協  
働で作品を作るには逆に小さすぎるだろう。フィー  
ルドワークという用途ならば、おそらく 7 インチク  
ラスの端末が望ましいのではないだろうか。

#### 5. おわりに

iPad を大学に導入している例として、新入生全  
員に無償配布している名古屋文理大学の試みがあげ  
られるだろう。しかし、同校の試みも「PC で行って  
いるマルチメディア教育の一部を、タブレット PC  
を活用したものに置き換える」<sup>(1)</sup>という段階であり、  
iPad でなければならない教育とはいいいがたいように  
思われる。

今回の試みは大きさという点で多少の問題はあ  
るものの、ノートパソコンに比べると海外でのフィ  
ールドワークや協働学習に適した端末であることが  
確認できたといえるだろう。今後、e ポートフォリ  
オへの対応を実現させていくとともに、より実践的  
な活用法を研究していく必要がある。

#### 参考文献

- (1) 森博, 田近一郎, 杉江晶子「タブレット PC を活用し  
たマルチメディア教育の試み」名古屋文理大学紀要  
第 12 号 (2012)  
[http://www.nagoya-bunri.ac.jp/information/memoir/files/2012\\_12.pdf](http://www.nagoya-bunri.ac.jp/information/memoir/files/2012_12.pdf)